

## 点検評価表（外郭団体）

## I 団体の概要

（令和4年4月1日現在）

団体名	天竜浜名湖鉄道株式会社		
所在地	浜松市天竜区二俣町阿蔵114番地2	設立年月日	昭和62年3月15日
代表者	代表取締役社長 松井 宜正	県所管課	交通基盤部都市局地域交通課
設立に係る根拠法令等	会社法、鉄道営業法、鉄道事業法		
団体の沿革	-		
運営する施設	鉄道施設（自己所有）		
団体ホームページ	<a href="http://www.tenhama.co.jp">http://www.tenhama.co.jp</a>		

出資者	出資額（千円）	比率（%）
静岡県	39,700	39.7
沿線市町（6市1町）	39,700	39.7
民間事業者	20,600	20.6
基本財産（資本金）計	100,000	100.0

役職員の状況（人）			
常勤役員	3	常勤職員	70
うち県OB		うち県OB	
うち県派遣	2	うち県派遣	
非常勤役員	9	非常勤職員	
役員計	12	職員計	70

## II 点検評価（団体の必要性）

## 1 団体の設立目的（定款）

地方鉄道業等を主に営むことを目的とする。

## 2 団体が果たすべき使命・役割

天竜浜名湖鉄道は、旧国鉄二俣線の線路を引き継いだ第三セクター鉄道であり、通勤・通学・通院など地域住民の日常生活の足として、重要な役割を担っている。  
また、鉄道沿線は歴史的文化遺産や豊かな自然に恵まれており、鉄道はそれらを活用した地域活性化に寄与する取組を期待されている。

## 3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	令和3年度は前年度比で旅客収入が110.8%と上回ったものの、前々年度比では77.9%と、新型コロナ前までは回復していない。令和4年度も新型コロナの収束の先行きが見通せない状況のなか、軽油単価の高止まり等により、引き続き経営環境は厳しいものと見込まれる。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	地域の公共交通として安全で安定した列車運行を持続するため、老朽化した鉄道設備の改修や想定される大規模地震対策を計画的に推進するとともに、コスト削減の努力を継続しながら鉄道事業収入をはじめ総収入の増加に努め、収支構造の改善と公的負担の軽減を図る。 このため、県、沿線市町は、上下分離の考え方を土台に輸送施設の整備、維持・補修に要する経費（人件費を除く。）を支援する。また、天竜浜名湖鉄道は、輸送施設の整備、維持・補修経費を除いた営業費用について営業収入で賄えるような収支改善を行い、全体の人件費を営業収入の範囲で賄う責任を負い、社員の意欲を高める賃金施策が実施できるようにする。 令和3年度は、新型コロナの影響下において運行を継続するため、追加支援を行った。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	公共交通ネットワークを形成する企業として、他の企業と連携して、利用者にとって使いやすいダイヤ編成に努めている。

#### 4 事業概要

(単位：千円)

区分	事業名	事業概要	R3 決算	R4 予算
県補助	地方鉄道事業	天竜浜名湖線（掛川～新所原 67.7km）の運行	798,684	732,546
合 計			798,684	732,546

#### 5 事業成果指標

指標の名称（単位）	目標（上段）及び実績（下段）				目標値（年度）
	R1	R2	R3	評価	
年間輸送人員（千人）	1,563	1,574	1,585	C	1,608 (R5)
	1,513	1,146	1,233		
年間旅客収入（千円）	417,325	422,125	427,039	C	437,207 (R5)
	411,158	288,964	320,237		
当期損益（千円）	0	0	0	A	0 (R5)
	4,373	2,623	2,201		

※評価 … A：目標達成 B：目標未達成 C：目標未達成（乖離大）

#### 6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に非常に厳しい経営環境のなか、アニメや地域資源等を活用した誘客活動により旅客収入が前年度を上回ったことに加え、グッズ販売の強化や副駅名のネーミングライツの募集やクラウドファンディングなどの新規事業の実施により、旅客収入以外の収入が大幅な増加につながったと考える。</p> <p>一方で、天竜二俣駅運転区構内の側線において、車両基地からホームに移動していた列車の脱線が発生したことから、より一層の安全対策のための取組が求められている。</p>	△	<p>運転区構内において車両脱線が発生したことから、改善を要すると評価する。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により旅客収入が大幅に落ち込む中、アニメとのコラボ等による運輸雑収の増加を図ったこと、新規事業への取組など評価できる部分もある。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているものの、多くの沿線住民や観光目的のお客様に支えられている。</p> <p>令和3年度は沿線市町の地場産品等の地域資源を鉄道でつなぎ、連携することにより、沿線地域全体の活性化を図ること目的とした「天浜線沿線域内連携推進事業」を開始し、沿線の地場産品などをPRする「天浜沿線盛り上げ大使」の結団式と地場産品を販売する「天浜線マルシェ」を三ヶ日町で開催するなど、沿線の観光振興、地域振興に大きく寄与していることから、団体の責務を果たせたと考える。</p>	○	<p>天竜浜名湖鉄道は、地域が支える第三セクター鉄道であり、沿線地域の基幹的な公共交通機関として、地域の振興と住民福祉の向上に貢献している。また、日本の原風景ともいえる景観を楽しむことができるほか、全線にわたり文化財登録された鉄道施設は、地域の景観形成に寄与する貴重な財産であり、地域活性化や交流人口の増加に寄与している。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

### Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

#### 1 財務状況

（単位：千円）

区分	R1 決算	R2 決算	R3 決算	評価	備考（特別な要因）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	5,550	3,801	3,378	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	-254,230	-272,605	-389,470	B	新型コロナウイルス感染症拡大
	公益目的事業会計					
	収益事業等会計					
	法人会計					
剰余金	85,948	88,572	90,774	A		

※評価 … A：プラス B：特別な要因によるマイナス C：マイナス

区分	R1 決算	R2 決算	R3 決算	主な増減理由等	R4 予算	
資産の状況	資産	601,686	466,352	609,502		587,672
	流動資産	546,681	409,101	536,476	補助事業の未収入金の増	536,476
	固定資産	55,005	57,251	73,026		51,196
	負債	415,737	277,781	418,728		396,897
	流動負債	378,704	233,935	372,798	補助事業の未払金の増	352,056
	固定負債	37,033	43,846	45,930		44,841
	正味財産/純資産	185,949	188,572	190,774		190,775
	基本財産/資本金	100,000	100,000	100,000		100,000
	剰余金等	85,949	88,572	90,774		90,775
	運用財産	-	-	-		-
収支の状況	事業収益 (a)	458,323	336,453	392,132	コロナの影響による減、運転雑収の増	480,868
	うち県支出額 (県支出額/事業収益)	(.%)	(.%)	(.%)		(.%)
	事業外収益 (b)	1,585	13,603	17,362		13,000
	うち基本財産運用益					
	特別収益 (c)	639,180	466,292	659,721	補助金の増	539,645
	うち基本金取崩額					
	収入計 (d=a+b+c)	1,099,088	816,348	1,069,215		1,033,513
	事業費用 (e)	714,138	622,622	798,684	修繕費の増	732,546
	うち人件費 (人件費/事業費用)	402,052 (56.3%)	385,569 (61.9%)	386,912 (48.4%)		394,150 (53.8%)
	事業外費用 (f)	-	39	280		-
	特別損失 (g)	379,400	189,886	266,873		299,791
	支出計 (h=e+f+g)	1,093,538	812,547	1,065,837		1,032,337
	収支差 (d-h)	5,550	3,801	3,378		1,176

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

収入増に向けてマスコミへ積極的な資料提供を行っており、令和3年度は200回、新聞等に掲載されている(令和2年度は211回)。

また、副駅名のネーミングライツの募集やクラウドファンディングの募集などを新たな収益確保のための取組を開始した。

加えて、沿線の草刈りに地元自治会等と連携することで、経費節減に努めている。

これらの収入増、経費節減の取り組みは評価できる。

## 3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

-

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	今回の黒字は県及び市町から106,000千円の追加支援を受けたものであることから、今後は、アニメ等を活用した誘客事業の展開やグッズ販売の強化等をより推進することにより、自ら安全・安定した列車運行に必要な資金を確保する必要がある。	△	新型コロナの影響を受け、県及び市町からの追加支援（106,000千円）によって、当期損益で黒字を確保できた状態であり、経営の健全性は保たれていない。 輸送人員についてはR2からR3にかけて増加していることから、より一層の輸送人員の増加に向けて、誘客事業やグッズ販売の強化など、さらなる推進が求められる。

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

#### IV 改善に向けた今後の方針

##### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
<p>コロナ禍において、大変厳しい状況にあるが、安全・安定した列車運行に努めるため、計画的な設備投資や社員に対する教育訓練を行うことで、安全の確保に努めていく。</p> <p>また、国や県と連携してアフターコロナの誘客に積極的に取り組んでいく。</p>	<p>コロナ禍の厳しい状況にあるが、経営計画（R1～R5）に基づき、安全運行を確保するため、施設維持や修繕を進めるとともに、利用者の回復（定期・定期外とも）に努めていただきたい。</p>

##### 2 今年度の改善の取組

団体の取組（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
<p>支出の削減については、業務の効率化等により可能な限りの削減に努める。</p> <p>収入の確保に向けては、旅客収入に加えて、「AKB48」、「エヴァンゲリオン」、「ゆるキャン△」等との連携継続、強化などにより、グッズ販売の更なる拡大を図るとともに、ネーミングライツの対象駅の拡大など令和3年度新規事業の拡大を図る。</p> <p>また、前年度に任命した「天浜線盛り上げ大使」と行く体験（農作物収穫等）列車等の着地型旅行商品の造成や、沿線の地場産品を販売する「天浜線マルシェ」の継続した開催により、収入の確保や地域の観光振興に繋げていく。</p>	<p>安全の確保は、輸送の生命であることから、安全運行の徹底に向けた取組を進めてほしい。</p> <p>コロナ禍にあって、旅客収入が落ち込む中、商品開発やネーミングライツの対象駅の拡大などあらゆる手段で収入確保を図っていただきたい。</p>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位：人、千円)

区分	R1	R2	R3	R4	備考（増減理由等）
常勤役員数	3	3	3	3	
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	2	2	2	2	
常勤職員数	73	72	71	70	
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	-	-	-	-	
県支出額	222,314	214,932	288,559	258,771	
補助金	222,314	214,932	288,559	258,771	
委託金	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	
県からの借入金	-	-	-	-	
県が債務保証等を付した債務残高	-	-	-	-	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額（当該年度は予算額）、借入金・債務残高は期末残高

### 2 点検評価（団体記載）

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画（R1～R5）」に人員配置計画を定め、組織体制の効率化に努めている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制としている。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか		該当なし

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

### 3 点検評価（県所管課記載）

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制は必要、有効と認められる。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	△	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画（R1～R5）」に沿い、計画的及び効率的に事業を進めているが、一部、施設整備の先送り等を実施している。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	-	-	コロナの影響により中止	
利用者アンケート	-	-		
利用者等意見交換会	○	-	毎月開催していた天浜線サポーターズクラブ定例会で意見を聴取している。 なお、天竜浜名湖鉄道株式会社の主催でないため、公表にあたっては主催者との調整が必要である。	意見を反映して行動した結果、ホームページで沿線の花の見頃を知ることができ、花の様子を見ることができてよかったといった意見をいただいた。
その他 (お客様御意見箱)	○	-	各有人駅において、設置している。	意見を反映して中止していた天浜ヘルシーウォークをコロナ対策を実施したうえで再開したところ、ウォークの参加者から、再開を感謝する意見をいただいた。

○：実施している／公表している    —：実施していない／公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

#### 【利用者意見等活用の具体例】

- ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底による、天浜ヘルシーウォークの再開
- ・小学校での天浜線に関する出前授業の実施
- ・利便性を向上したダイヤ設定
- ・花のリレープロジェクトに関する沿線の花情報をホームページに掲載
- ・掛川駅、天竜二俣駅、新所原駅において熱感知カメラを設置し検温を実施